

葦

大阪発達総合療育センター機関紙
第55号 2025年 春

社会福祉法人 愛徳福祉会

大阪発達総合療育センター

Osaka Developmental Rehabilitation Center

保険医療機関 南大阪小児リハビリテーション病院

INDEX

・特集に寄せて 船戸 正久	1	・リレーエッセイ	3
・特集に寄せて 川端 秀彦	1	・寄付金と寄付物品	4
・聖母整肢園から始まった障碍児(者)		・職員研修実施状況	4
・歯科の歴史	2	・院内学会発表	4
・第49回日本重症心身障害学会 学術集会の報告	3		

■特集に寄せて

社会福祉法人 愛徳福祉会

理事長 船戸 正久



■特集に寄せて

南大阪小児リハビリテーション病院

院長 川端 秀彦



1970年創立の聖母整肢園開設以来、大阪で初めての障害歯科の開設と継続に大変な貢献をいただきました、岡山大学名誉教授下野勉先生がその歴史を振り返られて貴重な寄稿をしていただいています。下野先生は、1970年大阪大学歯学部を卒業後、翌年から創設者梶浦先生の要請に応じて、当センターの非常勤歯科医師として勤務して下さいました。1983年米国州立ワシントン大学小児歯科学客員教授として留学し、1984年からは岡山大学歯学部教授に就任されました。それ以外にもインド、モンゴル、北京など大学歯学部客員教授を務めながら、当センターの顧問としても一貫して現在の中村歯科医長や当センターの障がい児歯科を支えていただきました。その長年に渡るご功績に心から感謝いたします。

昨年11月に第49回日本重症心身障害学会学術集会を開催しました。近畿地区の学会プログラム委員の皆さま始め、多くの職員にご協力いただきました。お礼を込めて報告します。

春の訪れとともに、私たちのセンターも新たな1年のスタートを切りました。桜の花が咲き誇る中、この会報が皆様のお手元に届くころには新しい年度が始まっていることでしょう。

今回は長年当センターで障がい児歯科を支えて下さった下野先生から、今回退任されることを機会に寄稿賜りました。センターの黎明期から現在までの55年間の障がい児歯科の歴史が手に取るようにわかると同時に、梶浦一郎前理事長をはじめとした先達達との因縁を興味深く拝読させて頂きました。これからも是非ご指導を賜りたく存じます。

また、昨年11月に開催された第49回日本重症心身障害学会学術集会に関する、船戸正久理事長からのご報告も本号に掲載されています。1500名以上の方々が参集され、大成功のうちに閉会を迎えることができたのは、理事長のご人望はもちろんです。職員の方のご協力の賜だと思います。

これからも共に手を取り合い、明るい未来へ向かって歩いていけることを願っています。





聖母整肢園から始まった障がい児(者)歯科の歴史

岡山大学名誉教授 愛徳福祉社会医務部歯科顧問 下野 勉



1970年、梶浦一郎先生、井上明生先生、そして訓練の紀伊先生、津田看護部長、前田事務長を中心に、我が国で初めてのボバース法を軸にした脳性麻痺児の超早期療育が聖母整肢園（小児整形外科病院）で開始された。当時蔓延していた乳幼児の虫歯に対する歯科的管理を、超早期療育の一環として捉えておられた梶浦先生の発案で、大阪大学小児歯科学講座からの歯科医の派遣が始まった。現在の手術室の一部を改装し^{*1)}、麻酔医と津田看護部長ならびに手術室担当の看護師の援助のもと、週に一回午前中に1～2例の全身麻酔による集中治療、午後には外来診療による全身麻酔治療後の定期健診、入園児の一般治療、そして母子入園児とその母親を対象とした口腔衛生指導を開始した。外来診療補助、処置後のケアや入園児の日常の口腔衛生管理の必要性から常勤歯科衛生士が必要となったが常勤歯科医のいない施設への行政からの補助は困難であった。たまたま、来院した当時の府公衆衛生部長のお子様を担当した際、衛生士の必要性を熱心に聞いていただき、1977年、初めての常勤歯科衛生士村井さんが配置された。1979年、二代目の常勤歯科衛生士徳山さん、看護部から清藤さんの協力も得て診療実績を伸ばしていった。さらに1978年より大阪大学歯科研修医や歯科衛生士学校の障がい児教育の実習の場を提供し、障がい児歯科医療のノーマライゼーションを目指した取り組みに徐々に転換していった^{*2)}。つまり、診療開始後4年間の67例をもって全身麻酔による歯科治療を終了し、すべて外来治療のみで行うようになった。その結果、診療実績も飛躍的に増大し、1982年に南大阪療育園に改組され歯科診療室が通園部に新設され、ここで実習を受けた阪大の学生の中から1983年、初代常勤歯科医として、林昌司先生が就任し、岡山大学の初代小児歯科学講座教授に就任した下野の講座から週一回、派遣した4名の非常勤歯科医の応援により、本格的な診療が開始された。1992年、常勤10年目の林先生の奈良での障がい児、小児歯科専門医としての開業に伴い、米国ワシントン大学での留学を終えた岡山大学歯学部第1期生の堀雅彦先生にバトンタッチ



*1) 手術室での治療

された。2002年ふるさとでの障がい児歯科医療の発展に寄与したいとの希望で、岡山で最大の規模を誇る障がい児者医療福祉施設旭川荘へ歯科医長として赴任した堀歯科医長に続いて、7年間の本歯科室で非常勤歯科医としての勤務実績がある中村由貴子歯科医長が2002年度より就任した。2007年4月、大阪発達総合療育

センターへの改組に伴い、旧薬剤部が改装され、面積も1.5倍に増大し、明るくきれいになった診療室へ2度目の引っ越しとなった。常勤歯科医と4名の非常勤歯科医の二診体制で、一日40名以上、延べ年間10,000人に上る診療が行われるようになった。さらに市村看護部長の計らいで二名の病棟専属歯科衛生士を配置した。



*2) 車椅子のままで治療

障がい児の歯科の観点から見たノーマライゼーションを目標とし、行動科学の理論を取り入れた診療が展開され抑制具や全身麻酔に頼らないで、子供とスタッフの笑いが絶えない日本でも有数の施設に発展し、全国のみならず海外からの見学者も多い。梶浦正運営局長は55年前に卒後間もない私に障がい児医療の重要性を認識させて頂いた梶浦一郎先生のご子息であり、井上信明先生は井上明生先生のご子息で、モンゴルのJICAに勤務していた時に面識のあったモンゴル近代歯科医療の草分け的存在のラグバー先生^{*3)}が2025年私の最後の診療日に南大阪へ来院した。この先生のご子息夫婦ウルジ君とムングさん^{*4)}は、私の岡大での最後の外国人留学生でありムングさんはJICAの推薦で7年前に南大阪で研修を受けた小児科医のエンクジャガル先生と一緒にウランバートル郊外の聖母整肢園時代によく似た施設で障がい児の歯科健康支援を行っている。私の歯科医師人生の起承転結が梶浦一郎、井上明生先生、二人の恩師に深くつながっていることに不思議なご縁を感じます。

国の違いや心身の障がいの有り無しにかかわらず、すべての子供が幸福と健康を追求できる世の中になって欲しいとの私の思いを確信させてくれた聖母整肢園—南大阪療育園—南大阪小児リハビリテーション病院での55年間でした。

大阪発達総合療育センターの職員、利用者各位の皆様のご健康とご多幸を祈念いたします。

長い間、ありがとうございました。

2025年3月8日



*3) ラグバー先生



*4) ムング先生

第49回日本重症心身障害学会 学術集会の報告

理事長 船戸 正久

青野氏:特別講演
「わたし前例をつくります」



2024年11月8日(金)・9日(土)、神戸国際会議場で第49回日本重症心身障害学会学術集会を開催しました。テーマを「重篤な障害児・者の方々のトータルケアを多職種協働でどのように大切に支援するのか?～QOL支援とQOD支援のベスト・プラクティスを目指して～」とさせていただきました。第1回目(日本重症心身障害研究会)は、1975年に「重症心身障害児の父」と言われた小林提樹先生(島田療育園創立者)により東京で開催され、大阪の施設では初めての主催でした。

学術集会では、一般演題が279題、招待者を含めた参加者が約1500名以上と大変盛況な集会となりました。現在、多くの利用者の方々の重症化・高齢化が進み、療育の現場でも「どこまで本来傷害行為に当たる侵襲的治療介入をendlessに行うのか」が大きな課題となっています。そうした中、療育施設で各専門職種が協働してQOL(Quality of life:いのちの質、生活の質、命の輝き)支援と同時にQOD(Quality of death:死の質、看取りの質=Quality of dignity:尊厳の質)の支援をキーワードにそれぞれのベスト・プラクティスについて共に考える良い機会となりました。医療・療育関係者の方々の関心も深く、当事者の方々やご家族の参加もあり大変祝福された学術集会でした。

今回、多くの医療型障害児入所施設や療育現場で行われている素晴らしいQOL支援に加え、愛情深いQOD支援にも多面的な光を当てていただきました。とくに特別企画「ファッションショー:ファッションの街、神戸からおしゃれを届けます」「人工呼吸器ユーザの声を聞かせて」、市民公開講座「ボッチャとの出会いと挑戦」などを一般公開としました。事後アンケートでも、93%(319名/342名)の回答者の方々が「非常に良かった」「良かった」という嬉しい感想をいただきました。講演、シンポジウム、一般講演などでの発表やボランティアとして協力いただいた多くの職員の方々に心から感謝します。



学術集会終了後のスタッフ記念写真

リレー エッセイ



訪問看護ステーションめぐみ 山本 真希

こんにちは!ヘルパステーションめぐみの赤い帽子を被っている人です。
私は人との関わりやお喋りが好きで福祉の仕事を選びました。今では利用者さんの笑顔に触れたり、ご家族さんの想いに触れたりできることにすごくやりがいを感じています。また私が楽しく働けているのは周りの方の助けがあってこそだと日々感謝しています。

センターでたくさんの素敵な出会いをしてきましたが、1番はやはり同期の仲間です。職場で出会った関係ですが、プライベートでイベント事を催したり、旅行に行くぐらいの仲良しです。仕事での辛かったことや不安、楽しかったことや成功したことたくさんの気持ちや経験を共有してきました。同期の存在に助けられたことは何度もあります。性格がバラバラの私たちですが、何故仲良くできているか考えてみると、みんな他者を理解する力があるのだと感じました。できないことは得意な誰かが補って、自分の得意なことで誰かを助けたり、違いを認めて押し付けない。簡単なようでむずかしく、意識してもなかなかできるものではないと思います。

またみんなと同じ方向に向かって全力疾走できるそんな同期は私の誇りです。
愛溢れすぎた文章にはなりましたが、これからも私は人との関わりを大切に、猪突猛進していきたいと思っています!!



大阪発達総合療育センターへの御理解・御協力誠にありがとうございます



(R6.10~R6.12)

(R6.10~R6.12)

一般寄付金

月	寄付者 (敬称略)	
10月	平井のぶ子	本園
12月	榎万代 楽基金 1件	本園 本園

寄付物品

	寄付者 (敬称略)	物品名	
10月	匿名 土井史都子 辻本梨恵 匿名 岸本真珠 匿名	おもちゃ おもちゃ スイミングパンツ おもちゃ ぬいぐるみ 子ども服	本園 本園 本園 本園 本園 本園

寄付物品

	寄付者 (敬称略)	物品名	
10月	匿名 匿名	本 本	本園 本園
11月	難波理恵 匿名 匿名 杉山知里 廣中修平 匿名 吉村郁人 榎ダッドウェイ	洋服 おもちゃ (魚釣り) 靴 屋外イルミネーション 車椅子 (中古) おもちゃ 子ども用靴 3点 OXO Tot お子様向け食器	本園 本園 本園 本園 本園 本園 本園 本園
12月	佐藤誠途	歌絵本	本園

職員研修実施状況

令和6年10月~12月

当センターでは、質の高いチーム医療の提供をめざして、様々な職員研修を行い、技術の向上と知識の蓄積を図っております。

実施日時	企画部署	研修名	講師	参加人数	場所
令和6年10月19日(土) 13:00~17:00	教育研修部	主任研修	枚方総合発達医療センター 井澤陽子氏	20名	5階ホール
令和6年10月29日(火) 17:40~18:40	感染管理委員会 教育研修部	感染管理対策研修 「ノロウイルス感染症対策」	看護部 主任 感染管理認定看護師 小崎聖子	96名	5階ホール 他
令和6年11月26日(火) 17:40~18:40	セーフティマネジメント 委員会 教育研修部	医療安全管理研修 「人の話を聞きましょう!」	医務部訪問診療科 部長 飯島禎貴	52名	5階ホール 他
令和6年12月7日(土) 13:00~16:00	教育研修部	主任研修	看護部・療育部・ リハビリテーション部 管理職	20名	5階ホール

院内学会発表

実施日：令和6年12月28日(土)9:00~12:20 参加人数：164名 場所：5階ホール

演題発表	発表者・講師	演題発表	発表者・講師
「わかば病棟を繰り返し利用している重い障害がある子どもの長期経過～A君が動き出せるようになった6年間の経過～」	リハビリテーション部 河中眞真 桃川菜実 実藤 遙 	「放課後等デイサービス 夏休み集団企画の取り組み」	ゆうなぎ園 苑田徳子・森貞更加代
「訪問業務効率化のためのタブレット導入」	訪問看護ステーションめぐみ 中村まい香 南 智子 岡村直保子 長谷川智子 	「食べるのが嫌なのは、わがままなの？ すべての子どもが食べることを楽しめるように」	看護部 牛尾実有紀
「海外人材との未来～ベトナム出張を通して見てきたこと～」	療育部 吉田大伍	「人工呼吸管理中の吸入療法におけるネブライザー3機種のか加湿効果の比較実験」	医療技術部臨床工学科 坂本彩華・輪ノ内 新 医務部小児科 竹本 潔
		講演会 「医療型障害児入所施設と今後のセンターの役割」 ～皆さんはどのようなセンターにしたいのか？	理事長 船戸正久



大阪発達総合療育センター

URL : <http://osaka-drc.jp>

発行者・社会福祉法人 愛徳福祉会
発行責任者・船戸正久

南大阪小児リハビリテーション病院(保険医療機関)
フェニックス(医療型障がい児入所施設・療養介護事業・短期入所事業)
主として重症心身障がい児者
わかば(医療型障がい児入所施設・短期入所事業)
主として肢体不自由児
ふたば(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業)
主として肢体不自由児
いぶき(特定相談支援事業・障がい児相談支援事業)
なでしこ(生活介護事業・児童発達支援事業)
TEL:06-6699-8731 FAX:06-6699-8134 〒546-0035東住吉区山坂5-11-21
訪問看護ステーションめぐみ(指定訪問看護事業)
TEL:06-6699-8855 FAX:06-6699-8856
ヘルパーステーションめぐみ(指定訪問介護事業)
TEL:06-7506-9223 FAX:06-6699-8856 〒546-0035東住吉区山坂5-9-16

大阪発達総合療育センターあさしお診療所(保険医療機関)
あさしお園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)
主として肢体不自由児
ゆうなぎ園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)
主として難聴児
TEL:06-6574-2521 FAX:06-6574-2524 〒552-0004港区夕風2-5-3
きらり(共同生活援助事業・短期入所事業)
TEL:06-7501-0328 FAX:06-7501-0330
ひなた(生活介護事業)
TEL:06-7501-0319 FAX:06-7501-0330
みらい(放課後等デイサービス事業)
TEL:06-7501-0282 FAX:06-7504-0212 〒546-0035東住吉区山坂5-12-5